

■ HRD FINE ART 展覧会開催のご案内 ■

キム・ユンソプ 個展
Types of Caps いろいろなぼうし

会 場： HRDファインアート（京都市上京区上御霊豎町494-1）
会 期： 2020年 3月7日（土）～ 4月11日（土） ※日～水曜日休廊
時 間： 11:00～19:00

オープニングレセプション：2020年 3月7日（土） 17:00～

★レセプションでは、韓国・チョンジュの「交響楽団《想像》」を主宰するユ・ヨンソン氏による韓国伝統楽器の演奏パフォーマンス《Real Dialogue》も行われます。

【展覧会概要】

HRD ファインアートでは、韓国人美術作家キム・ユンソプの個展「Types of Caps いろいろなぼうし」を開催いたします。本展は、韓国国内で数多くの個展を開催し、また各地のアーティスト・イン・レジデンスのプログラムにも多数参加している作家の、海外初個展となります。

キム・ユンソプは韓国中部の都市チョンジュ（清州）出身。大学では漫画学科で学びましたが、アーティストとしては一貫して絵画やドローイングを中心とした制作・発表を行っています。近年は、西洋近代美術の巨匠たちを写した白黒写真の画像をベースに、想像で色彩を補って油彩画に描く「Old School」シリーズや、室内風景をパーツ的に描いた複数のキャンバスの配置により古いビリヤード場の空間そのものを再現する絵画インスタレーションなど、描かれるイメージと表現、そして言葉の関係性にまつわる問いに真摯に向き合いながら、幅広い制作を精力的に展開しています。

本展「Types of Caps」では、社会的な立場や地位、嗜好、職業などを表象するものとしての多種多様な「Cap（帽子）」を、同じように多種多様な形態と機能を備えた「絵画」のメタファーとすることで、重層的な構造を持つ絵画世界が展示されます。そこには、ドローイングと絵画、東洋文化・美術と西洋文化・美術など、アジアの現代美術作家であれば誰しもが直面する根本的な二項対立のテーマも絡み合い、厚みと揺らぎのある表現となって結実しています。

「絵画」に魅了され、「絵画」に戦いを挑み続けるキム・ユンソプの、独特なユーモア感覚にも彩られた作品世界をぜひご覧ください。

お問い合わせ：HRD FINE ART（エイチアールディー・ファインアート）

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊豎町494-1
電話：090-9015-6087（担当：原田）
ウェブ：http://www.hrdfineart.com Eメール：info@hrdfineart.com



【作品画像】（一部参考作品）



Types of Caps - Gilgamesh Frame（部分）
油彩／キャンバス 235×320cm 2020年



Types of Caps - Lion and Palm Tree（部分）
油彩／キャンバス 224×147cm 2020年

【作家略歴】

キム・ユンソブ

Yunseob Kim

1982 チョンジュ（清州）生まれ
 2005 コンジュ（公州）大学校映像保健学科漫画学部卒業
 現在、チョンジュ在住

主な個展

2009 「Desultory World, Circumference」 Art Factory in Dadaepo（プサン）
 「A poor-looking man」 Cheongju Art Studio（チョンジュ）
 「Learn by Story」 Morris Gallery（テジョン）
 2010 「6.54」 Public AIR（チョンジュ）
 2014 「The Hell」 Art Space Purl（テグ）
 2015 「Kimyunsup's Drawing Exhibition」 Space The River（チンジュ）
 2016 「Pilgrim-Martyr - The World is Too Old, and There's Nothing New」 Gallery Chosun
 （ソウル）／Seolmijae Art Museum（カンウォンド）
 2017 「Report, Indipress-Seoul」 Schema Art Museum（チョンジュ）
 2018 「Form of Cap」 Suryuheon（チンジュ）
 2019 「Old School」 Space O'NewWall（ソウル）

主なグループ展

2008 「ASYAAF」旧ソウル駅（ソウル）
 「Imagination Space Korea-Japan」 Bexco（プサン）
 「Wonderful Pictures」 Ilmin Mueum of Art（ソウル）
 「Open Studio」 Art Factory in Dadaepo（プサン）
 2009 「Living Furniture」 Cheongju Art Studio（チョンジュ）
 「Interference」 Cheongju Art Studio（チョンジュ）
 2010 「Public AIR 'Friends」 Chung-suck Gallery（ソウル）
 「In Absentia」 Dong-deok Art Gallery（ソウル）
 「Art Daegu Special Exhibition」 EXCO（テグ）
 「NIPE=0%」 Art Space Purl（テグ）
 「Oppose Tactics to Island」 CungJungGak（ソウル）
 2011 「GMA Residence Artist Exhibition」全羅南道玉果美術館
 「Next Code」テジョン市立美術館（テジョン）
 「Residence Network」 Daegu Art Culture Museum（テグ）
 「The Art of Temptation」 Art Space Purl（テグ）
 2011-12 「The Secret, Margin of Error: 2011 Arko Network Project」 Arko Museum of Art
 （ソウル）／Busan Museum of Art（プサン）／Gwangju Museum of Art（クワンジュ）
 2012 「Record Nonmateria」 Cheongju Art Studio（チョンジュ）
 「Nomadic Imagination」 Continental Gallery（札幌）／CAI 02（札幌）

- 「Woher, Wohin」 スウォン文化財団 (スウォン)
 「Summer Open Studio」 キョンギ・クリエーション・センター (アンサン)
 「Residence Network」 Deagu Art Factory (テグ)
 「International Expo」 Woomin Art Center (チョンジュ)
- 2013 「Pyeongchang Special Olympic Art Link」 Pyeongchang Special Gallery (ピョンチャン)
 ／Insa Art Center (ソウル) ／Uniqlo Seoul (ソウル)
 「The Public's Extended」 Seoul284 (ソウル)
 「From Suchangdong」 Daegu Art Factory (テグ)
- 2015 「The Butterfly Effect」 Kumho Museum of Art (ソウル)
 「Daegu Contemporary Art Festival of Gangjung」 Gangjung Water Museum Space (テグ)
 「Pilot Hole」 Borim Building (ソウル)
 「Monoscape - Seeing with the Mind」 Gallery Unofficial Preview (ソウル)
 「Doppelganger」 concrete platform」 (カンヌン)
- 2016 「Hexagonal Chamber」 Kumho Museum of Art (ソウル)
 「.jpg」 Now Here (ソウル)
 「The Golden Mountain Does Not Exist」 Leeyeonjoo Gallery (プサン)
- 2017 「Artist of Tomorrow 2017」 チョンジュ市立美術館 (チョンジュ)
- 2018 「Art as Experience」 Space K (ソウル)
 「Modern People」 Sooseong Artpia (テグ)
 「Desperate, Pessimistic, Optimistic」 Seum Art Space (ソウル)

アーティスト・イン・レジデンス

- 2008-09 Art Factory in Dadaepo (プサン)
 2009-10 Cheongju Art Studio (チョンジュ)
 2011-12 GMA Yangsan-dong Art Studio (クァンジュ)
 2012-13 GCC キョンギ・クリエーション・センター (アンサン)
 2014-16 Kumho Creation Studio (イチョン)
 2018 White Cube Art Center (チョナン)